2026年7月11日（土）山陽新聞　[都市圏]

川崎医福大生 ネット取引の注意点を啓発

倉敷の支援学校で

川崎医療福祉大（倉敷市松島）の学生が10日、消費トラブルに関する講座を倉敷まきび支援学校（同市真備町箭田）で行い、インターネット取引の注意点を生徒たちに啓発した。

学生が消費トラブルの注意点を生徒に呼びかけた講座

講座は若者を対象にした県消費生活センター（岡山市北区南方）の啓発事業で来年2月までの全4回。センターに講師登録している同大消費者教育ボランティア吉備団（きびだん）の5人が今月3日に続いて派遣され、同校高等部からは3年生16人が参加した。

学生はゲームの課金や動画配信への投げ銭で、保護者の許可なしに高額を使い込む事例を寸劇で紹介。「1回の支出は少額でも回数を重ねるうちに慣れてしまう」「後日引き落としになるクレジットカード決済はお金を使っている感覚を得にくい」と訴えた。

吉備団の辻田望乃さん(21)は「自分の生活に置き換えて考えられるよう、事例の提示や声かけを工夫した」、受講した土佐ケンジさん(17)は「上限を決めて楽しむことが大切だと思った。不安があれば身近な人に相談したい」と話した。

吉備団は2019年に結成し、同校での講座は4年目。（後藤泉稀）